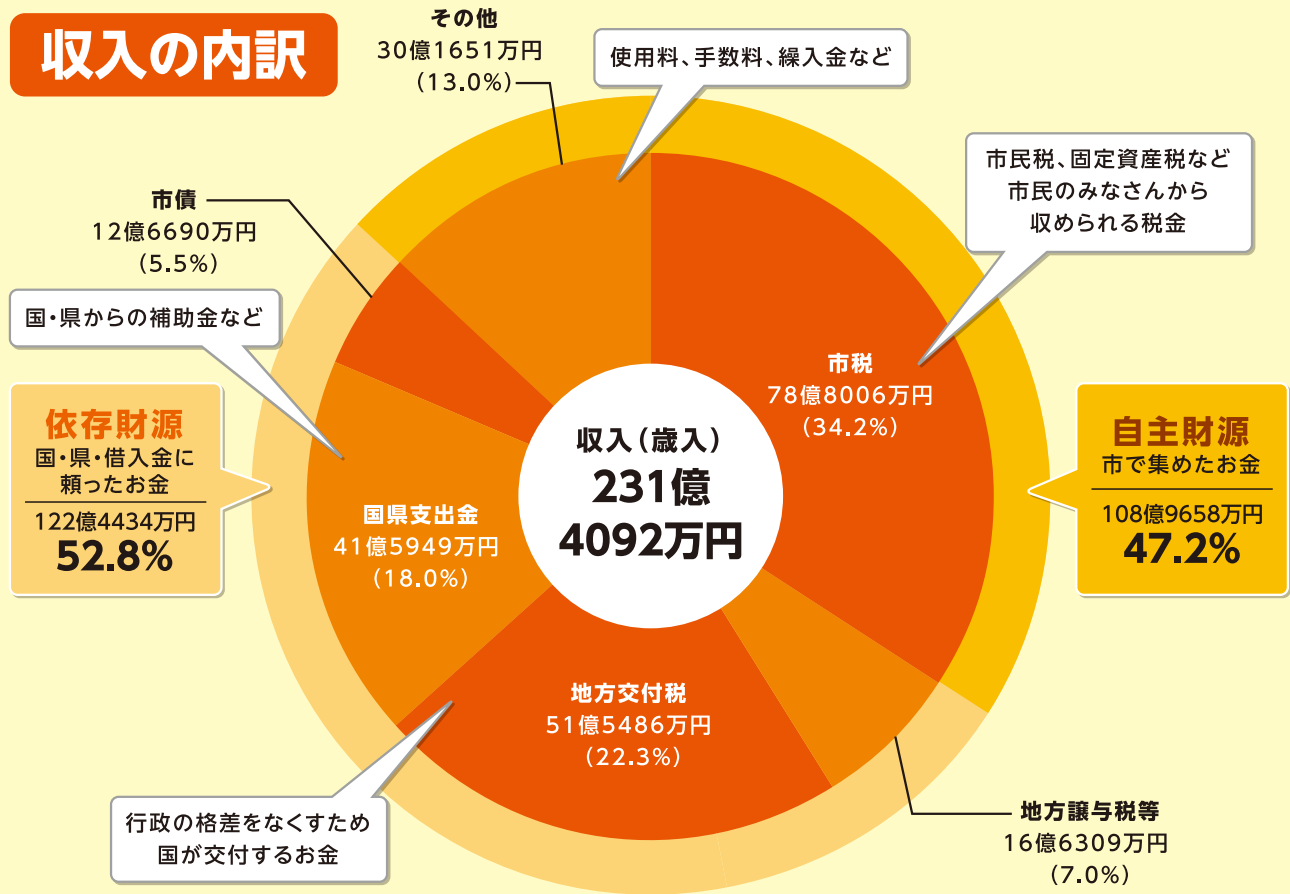


収入の内訳



適応指導教室
「すまいる」を
佐織地区に増設

充実した内容は、

佐織地区に教室を増設し、市北部の地域の児童・生徒の受け入れ体制を充実させ、適応指導に加え教育相談にも対応できるよう体制強化した。

佐屋・佐織の利用者数は、

佐屋地区は、小学生が3名、中学生が16名、佐織地区は、小学生が1名、中学生が9名。

教育相談は教室を利用している人に限定されるのか。

不登校児童だけでなく指導員が適宜学校を回り、それぞれ相談業務を行っている。

討論

賛成

持続可能な市民生活を支援する事業を

市税は、緩やかであるが、増収となっており、財源比率では、依存財源に頼らなければならぬ現状である。

しかし、厳しい財源においても、数多くの市単独事業を始め、持続可能な市民生活を支援する事業が行われている。

社会情勢や経済が大きく変化しても、市民生活の支援は待たない。そのため財政調整基金も計画的に積み立てている。

反対

コスト削減ばかりが目がいっている

合併15年になるが、佐織地区とか、佐屋地区とか、未だに愛西市全体としての体制に転換できていない。

市街化区域でありながら、消防車や救急車が入れない状況のまま。また、高齢者の外出が認知症予防等に効果があることは明らかであるのに、高齢者

かであるのに、高齢者タクシーの利用が公共施設や病院に限られ、このままでは、介護や医療費の増大につながる。コストを削ることばかりに目が行き、この先の危機に対応ができていない。

公共施設の使用料の値上げも、必要だったのか疑問だ。